

〈解答〉

- ① 1 A さまざまな言葉や言い回し      B 推理したり想像したり  
2 つまり言葉  
3 〔例〕語いの減少は重大な問題であるということ。(20字)

配点 ①1は各2点、他は各3点 10点満点

〈解説〉

- ① 1 第二段落で、筆者は日本語について、語いが豊富な言語で、同じ意味のことでも、「さまざまな言葉や言い回し」があると述べている。また、次の段落では、そのような日本語の特徴ゆえに私たちは、言葉を受け止める際に無意識の中で言葉のニュアンスを感じて、言葉以上のものを「推理したり想像したり」しているとも述べている。
- 2 「諭される」「戒められる」「諫められる」「叱られる」などは、内容や非の度合いに違いがあるが、それらのニュアンスの異なる言い回しは「怒られる」一つに統一されている。それを筆者は、死語になりつつあると表現しているが、その理由は、第十段落の「つまり言葉を使う側も、言葉を受け止める側も、ニュアンスの差を考慮することがなくなってしまうたのである。」という一文で述べられている。
- 3 傍線③の部分「そうでもない」は、直前の「それがどうした、大した問題ではないだろう」を否定している。「それ」が指すものは、第十一段落の「豊富な語いが一つ二つの言い回しに統一される現象は、多くの言葉に見られること」であるため、「そうでもない」は「豊富な語いが一つ二つの言い回しに統一されること(＝語いの減少)は重大な問題であるということ」を意味しているのである。